

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101524		
法人名	有限会社サン・リンク		
事業所名	グループホーム陽恵苑 (Bユニット)		
所在地	島根県松江市馬潟町104番地1		
自己評価作成日	平成22年2月3日	評価結果市町村受理日	平成22年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kouinyou-c.tokushim-shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3270101524&SC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成22年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が自分らしく生きるためにも、本人の出来る機能を生かし、個人の尊厳を大切に個別のケアを今後も継続していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個別対応が定着し、利用者の思いや意向の表出に努め外出や終末期ケアなど実践している。また、開業医師の指導により「口腔ケア」プランニングアイを実施し咀嚼状況が改善し、入れ歯が入るようになった方や、いろいろであった方が食べられるようになった事例がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で安心して生活が送れるよう利用者の尊厳を大切に事業者独自の理念に基づき管理者と職員は毎日申し送り等を行い利用者個々の体調を把握し安心して生活が送れるよう取り組んでいる。	職員会議や、新しい職員にはオリエンテーションなどで、理念に掲げている利用者の尊厳や思いの把握、望んでいる支援など個別対応をすることを話し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日本家屋で広い庭があり植木や花、畑などがあり近隣の方や、家族、が入りやすい雰囲気があり苑内の行事にも参加していただきまた公民館活動にも参加し馴染みの方との交流もできている。	バーベキュー会では、地域の方や消防団、利用者、家族が参加し交流した。紙芝居など、多くのボランティアの協力があり利用者も楽しんでいる。公民館の「よらこい喫茶」にも参加を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方にも認知症の人の理解をしていただけよう交流会や、災害時の協力などをお願いできるよう日頃から行事参加などにも声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況報告、介護保険の取り組みなど市町村との連携を図り利用者個々の尊厳や、利用者のケア向上のために生かしている。	ホームの状況報告・地域との関わり・個別ケアについて・行政からの提案・家族の要望事項などの議題を設け意見交換している。意見などは、事業所のケアの方針に活かしている。	2ヶ月に1回の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議や、必要に応じて連絡、相談を行い、対策に向けて検討している。	運営推進会議でも意見を伺い、日常でも相談を行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の意思を尊重し思いを大切に対応を行っている。身体状況の変化に応じて身体拘束にならないよう、ベット、畳対応など考慮している。また月一回のユニットごとの会議において個別に検討を行っている。	残存機能を生かした対応をするため、転倒の危険性のある場合は畳に変更したり、マットを敷くなど防止を心がけ、拘束をしないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回のユニット安全会議において個別に検討を行い、ひやりはっと、事故報告など安全に対する会議において検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護で親族がおられない方については生活福祉課との連携を密に行っていますが、現在は成年後見人制度や権利擁護の活用はされていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族との日ごろからの信頼関係を築くためにも面会時などは近況の報告を行い、行事等への参加を呼びかけ意見質問等を聞くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見要望については面会時や、行事などで意見を聴く機会を持っておりまた意見箱の設置も行っている。また地域運営推進会議などでも報告を行っている。	家族は面会時に利用者の様子を尋ねたり、話を聞いてもらい喜んでいる。陽恵苑だよりを毎月送り写真で行事の様子を知らせている。終末期ケアの希望も聞き対応している。	陽恵苑だよりを個別の内容にするなど、家族が利用者の生活がよりわかる工夫を検討して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの会議において意見が活発に出るよう心がけている。また月一回のチーフ以上の会議においても検討している。	各ユニット会議で事業所の全体的な問題や、担当の利用者の話し合いをしている。その時は他ユニットの応援勤務を得て全員参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理に関する研修に参加し職場環境の、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員には現任職員とマンツーマンでの対応を行い能力の状況を把握し内部研修を行っている。また現任職員には質の向上のためにも外部研修に参加できるよう検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一回同業者との集いに参加し、勉強会や、取組についての情報交換を行いサービスの質の向上に生かせるよう上司に報告改善への努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問および見学頂き情報交換を行い、入居に関しての不安の無いよう密に話し合いができるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問および見学頂き情報交換を行い、少しでも信頼関係が築けるよう対応を行っている。また入居者の様子や重要事項等の説明も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは環境に慣れていただくことを重点に不安の軽減となるよう声掛け、や、個別の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持てる機能を生かし、励みや、意欲につながるよう支援していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の気持ちを大切に家族も踏まえ行事などに参加を呼びかけ、本人、家族、職員との人間関係を築いていけるよう話す機会を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外出を計画したり、個別にご本人の気持ちを大切に地域に出かけている。また家族の協力によりなじみの方の面会もできるよう支援されている。	お盆の外泊やお盆前後の面会時は、ゆっくりとくつろげる配慮をしている。利用者の希望で自宅に様子を見に行ったり、友人に会いに一緒に出かけるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく離床していただきその人に会った活動を取り入れている。利用者同士がコミュニケーションを図りやすい場の提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は契約後の関係は継続されていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿えるよう個別に意見を取り入れ対応できる機会を作っている。	担当が中心になってドライブや買い物に出かけると、職員を名前で呼ばれるようになるなど、思いを言いやすい関係が出来てきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人とのコミュニケーションの機会を多く持ち利用者の生活に生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一回の各ユニットごとに個別の検討会議を行っており職員の共通理解、把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族とのカンファレンスや、面会時に状況を伺いカンファレンスに替える場合もあるが日程が取れないケースもあり、こまめのカンファができていない。	生活歴や家族の思いなどを把握しプランを作成している。気がついたことはノートで伝達したり、日々のケアでの様子を伝え合い、プランに反映させている。	カンファレンスなどにより、介護計画や職員の統一したケアがさらに徹底されることを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送りや、カンファレンスを通して情報の共有化を図り介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の機能に応じ、個人の思いを大切に個別外出、食事、など対応を行うよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店、食事処、などその人が地域で生活している実感を感じていただけるよう外出行事を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にご本人の主治医による往診、場合によっては受診など相談しながら対応している。Drには文書にて報告しおれのないように対応している。	かかりつけ医の往診時には毎回事前にファックスで受診者の状況を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師も兼ねて対応しているため朝の申し送りや、状態変化の報告を受け速やかに対応できるようDrとの連携もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供を行い主治医から入院期間等へも連携をとり早期に対応し入院中も本人の状態や、Drとの情報交換を行い早期の退院に心がけてる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院によりADLの低下が考えられることもあり、入院時や、入院中に予測される状況を踏まえ医療との連携を図り家族にも情報提供を行い今後の方向性についても話し合い主治医とも連携をとっている。	家族の要望があり、終末期ケアを行った。主治医の協力もあり、職員も不安を持ちながらも、最後までリクライニングで食事を摂り、入浴を支援した。	今後、事業所としての終末期の対応指針を検討し、職員みんなで課題を話し合いながら支援を継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網の把握や、AEDの研修などにより訓練を行っている。また判断がつかない場合でも緊急連絡ができるよう常に管理者は緊急時に対応ができるよう職員に伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応、避難訓練を定期的に行っている。重度化された場合は居室の、移動なども検討の視野に入れスムーズな避難誘導ができるようまた、地域の協力体制ができるよう関係を深める機会を作っている。	年二回避難訓練、通報訓練、消火訓練、緊急呼び出し訓練など行っている。地域の消防団と避難訓練を行い、夜間は「知らせる方法が困難」など、改善への意見が出された。	今後も特に夜間に不安があるので、地域の方との協力体制を築かれ訓練を行っていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し利用者の尊厳を大切に職員が意識した対応ができるよう指導している。また入浴等にも配慮し、個別の対応によるプライバシーの確保や排泄時の配慮も気をつけるように努めている。	入浴時や排泄時はプライバシーを損ねないように気をつけている。同性介護も行っている。時に馴れ合いな言葉かけになってしまうことがある。	今後も人権の尊重とプライバシーの確保について、お互い確認し合い取り組んでいただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見、要望に自己決定は疾患により十分にできるとは言えないが、個々の理解力に合わせて本人の思いがかなえられるよう傾聴した対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者の意向に沿うようには努力しているがその場で可能なことは対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望において理美容移動車を活用し、対応している。また外出時などには洋服の選択の助言や、化粧をされる支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成し、下ごしらえや盛り付けなど一緒に行っている。また茶碗、湯飲みなどご本人のなじみのあるものを使用されている。また好みについては味付けなどで変化をつけ対応する場合もある。	利用者の力や希望に合わせて一緒に準備、片付けをしている。要介護5で食事が入らない状況で病院を退院し入居した方、入れ歯のなかった方などに、歯科医師と連携し口腔ケアを行うことで食事が入るようになった。	利用者と職員が同じ食事を一緒に食べる環境づくりを検討していただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の目安に応じて摂取量の記録し、好みに応じて対応している。栄養に関しては外部の栄養士に相談し、献立などの参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在「食べる機能の向上」に参加し歯科医師との連携により口腔内の状態を把握、歯科治療や、口腔ケアの改善に職員一同取り組んでいる。また、職員研修を行い歯磨きなどの指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時はリハビリ目的にも合わせ出来るだけ歩行していただきながら誘導を行ない自然排泄を促している。	一人ひとりの状態にあった紙パンツやパットを使用し、トイレ誘導している。自立支援に向けての研修や検討を行っている。気持ちよく過ごせるよう清潔にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在はできるだけ下剤を減らすよう努力は行っている。まだ本人の安定したコントロールができていないが出来るだけ自然排便に近づけるよう運動や、水分が取れるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴にはご本人の意思を確認し本人の希望に添うように対応を心がけている。一人で入りたい方や、入浴時間の希望など添えるように対応している。	時間帯や入浴の仕方など、利用者の希望を聞きながら対応している。特殊浴槽も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人の意向に応じて休息の時間や、入眠時間を本人の希望に合うよう対応している。また個人の状態に応じて睡眠時間も合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の必要性や、効能について職員にも理解し利用者の服薬が確実に服用できるよう見守りや、チェック機能を行い、服薬事故のないよう職員同士で確認合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の活用や、収穫の喜び、好きなカラオケや、食器洗い、洗濯など本人の意向と機能を生かし生活の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日など個人の意向を伺い個別の支援ができるよう努めている。外食、買い物、ドライブ、など	病院の受診時に買い物に行く、誕生日にカレーを食べに行く、竹内神社を一周するなど、本人の意向に沿ってできる限り支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や、家族の意向を確認し金銭の自己管理が可能な方には自分で管理していただいている。認知症のために管理ができない方については小額の金額を持っておられる方もある。(家族の承諾の上)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により対応している。また本人の不安による家電要求に対しても家族の事前の確認を行い対応している。自室に電話を設置されておりなじみの方からの電話も入っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	騒音や、テレビの音、職員の言葉のトーンも気をつけるようにしているが場所、時間などにもう少こし配慮が必要と考える場面が見られる。	炬燵やソファーなどがあり自由にくつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の気の合った関係などの把握し過ぎしやすい場を提供したり、関係の状態など日々の変化に対応できるよう配慮しその場で対応できるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の思いや自立支援に応じて、家具や使い慣れたものを使用され、雰囲気づくりに対応している。	電話、家族写真、仏壇、使いなれた筆筒などを持込み、本人の描いた絵などを飾って、利用者に合わせた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の希望に添い自分で出来ることへの支援(自分の衣類の洗濯)、自室の掃除など自分らしい生活ができるよう支援している。		